



モニタリングサイト1000
Since 2003

モニタリングサイト 1000 湿原調査

2013 年 11 月 25 日 作成

はじめに

モニタリングサイト 1000（モニ 1000）陸水域調査では、2009 年度から「湖沼」と「湿原」の 2 つの生態系において調査を実施しています。湿原植生は生態系のなかで生産者として生態系の基盤を形成し、その変化は湿原に生息する動物に大きな影響を及ぼします。

湿原調査では植生の状態を記録するために、ライントランセクト調査（湿原に線を引き、その線上の決められた地点に生育する植物種を記録する調査）や、温度・地下水位などの物理環境の測定を行っています。

2013 年度は、4 つのサイトで調査を行います。ここでは、調査当日の様子や調査結果の概要を紹介しています。なお、詳細な調査結果は今年度の『調査報告書』に掲載します。



更新履歴

- ・2013 年 11 月 25 日 釧路湿原サイト・尾瀬ヶ原湿原サイトの調査結果を掲載

釧路湿原サイト（北海道）

釧路湿原は日本最大の面積を持つ湿原です。調査地点は湿原西側の温根内地区にあり、4 つの調査区（高層湿原・スゲ型低層湿原・ヨシ型低層湿原・ハンノキ林）に方形枠を 5 区ずつ設置しています。

本サイトでは、2009 年度に 1 回目のライントランセクト調査を行い、以降は毎年実施しています。5 年目となる今年度の調査は 9 月 9 日に行いました。釧路湿原では、9 月中旬から下旬には植物が枯れ始めるため、調査が実施可能な時期の終盤といえます。

昨年度はハンノキの葉を食べるハンノキハムシが大発生し、ハンノキ林の林床に例年より多くの光が差し込んでいる様子でした。今年度の調査でも同様にハンノキの葉の量が少ない傾向にあることから、ハンノキハムシによる影響が懸念されます。

また、近年全国的にシカの植生への影響が顕著になってきていますが、釧路湿原でも同様にエゾシカによる湿原内の踏み荒らしや採食が確認されています。今



スゲ型低層湿原の調査地点の景観

年度についても例年と同じくエゾシカによる踏み荒らしや採食が確認され、植生への影響が懸念されましたが、調査地での採食がやや減少したのか、昨年度にくらべて植物量が若干増えた調査区が多く認められました。また、2011 年までは少なかったホソバアカバナやサワギキョウなどの着花数も昨年度の同じ時期より増加しているように見受けられました。



ハンノキハムシによる葉の食害 (2012 年度撮影)



ヨシ型低層湿原の調査地点の景観



ホソバアカバナ

夏から秋に開花する釧路湿原サイトで特徴的な植物



サワギキョウ

秋に開花する代表的な湿生植物

【調査者】

佐藤雅俊（帯広畜産大学）

写真撮影：佐藤雅俊

尾瀬ヶ原湿原サイト（群馬県）

尾瀬ヶ原湿原は、東京から北へ約 140 km のところに位置する群馬県、新潟県、福島県の 3 県にまたがる本州最大の高層湿原です。

本サイトでは、湿原内の中田代地域(群馬県)で 2010 年度に 1 回目のライントランセクト調査を行い、今年度は 2 回目となる調査を 9 月 9 日と 10 日に実施しました。調査時にはヤマウルシが紅葉し、秋の花であるミヤマアキノキリンソウやイワショウブが開花していました。

今回の調査では、方形枠全体の植被率（平均値：約 91%）や出現種数（平均値：約 17 種）は、1 回目の調査とほぼ同様の傾向を示しました。一方、方形枠全体の植物の草高（平均値：約 55 cm）は、1 回目の調査に比べて 10 cm 程度低くなった方形枠が多くありました。

なお、全国の多くの場所でシカの植生への影響が顕著になっていますが、本サイトの調査ラインの近傍でもシカのヌタ場（泥をあびる場所）や採食の形跡が見られており、今後の植生への影響が懸念されます。

【調査者・調査協力者】

竹原明秀（岩手大学）、安類智仁（片品・山と森の学校）、服部恵子（環境省）、中川雅博（日本国際湿地保全連合）

写真撮影：中川雅博



尾瀬ヶ原の景観
木道から燧ヶ岳をのぞむ



調査風景
ヤマウルシが紅葉していた



ミヤマアキノキリンソウ
秋に開花する代表的な植物



イワショウブ
秋に開花する代表的な植物



大きくなりつつあるシカのヌタ場
(右上は 2011 年 7 月に撮影)
調査ラインの近傍で確認された



シカに捕食されたカキツバタの葉
矢印は食痕を示す

参考情報

- [平成 24 \(2012\) 年度モニタリングサイト 1000 陸水域 湿原調査 速報](#)
- [平成 24 \(2012\) 年度モニタリングサイト 1000 陸水域 調査報告書](#)

